



る う て る

2014年
11月
No.810

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区中谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 安井宜生 koho06@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵便を含む)
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「神様をどのように知るのぞしよ」

板橋教会牧師 鷲見達也

神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相續者定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。(ヘブライ人への手紙1章1-3節)

「神様は本当におられるのでしょか、未と子どもが病気になる不安なので。」「という質問があまりです。私は「おられますよ」と答えましたが、私たちは神様の存在をどのように知ることができるのでしょうか。

モーセが神について尋ねたとき、神は「わたしはある、あるという者だ(出エジプト3・14)」とお答えになりました。そしてまた「あなたはわたしの顔を見ることはできない」(同33・20)と言い、人に姿を見せないで「通り過ぎる」神だとして自分を表現されました。全世界の創造主なる神は、私たちが見ようとしても捉えどころがないのです。しかし、私たちに自己を示すために、御子、すなわち主イエスをお送りくださいました。

冒頭の聖句にありますように、全権委任された御子によって神は私たちに語られるのです。神は御子イエスによって私たちに神を示し、御子を見れば神が分かるようにしてくださっています。



誰からも相手にされない者、どこにも来て親しく交わり、病む人のところに来て癒してくださったお方です。弱い人のことを特別に気にかけ、本当に愛に



命の源である神は、たえず人間の救いのために働いてくださり、いつも私たちに呼び掛けておられます。私たちは自分の方から神を発見することはできません。私たちにできるのは、イエスによって与えられている神の愛の呼び掛けに応じることだけです。神様を分かつとすることは、主イエスの生き様を見心を開いて主イエスの呼びかけに応えることです。それによって存在しておられる真実の神を知ることができま

す。また、大小の紛争はいつでもでも尽きません。それらは全く、私たちが神をなかがしるにすることにより生じているのではないかと、私は自らを省みるのです。その私たちの傲慢さを、神はそのまま許すことはできないのです。しかし、神はご自身の御子イエスを私たちの身代わりとして十字架の上で血を流させ、その血の代償によって、私たちの罪を許してくださいました。そして、私たちに罪許された者として本来のエデンの園に住ませ、本当の命を回復させようとしてくださったのです。

主イエスは父なる神によって定められた働きを終えて、復活により天の父の家に戻られました。十字架を負ってくださった主イエスは、愛をもって天に

世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ福音書3・16)とあるとおりです。

牧師の定年に至ろうとする今、私は心底思います。どなたもが独り子イエスを信じ、真実の神に依り頼んで主にある平安の内に生きていただきたく願うのです。

2015 グループ・ワークキャンプ(米)

参加者募集中

対象: 14~20歳の健康な方
期間: 2015年7月23日(木) ~8月5日(水)
募集人員: 5~10名前後
参加費用: 20万円 (値下せしました!)

内容: ニューヨーク州(予定)でのホームステイとワークキャンプ
申込期限: 2015年4月末日(必着)

詳細はJELAのホームページ (<http://www.jela.or.jp>)をご覧ください。

下記のQRコードからキャンプのPR動画を視聴できます。(約15分)

主催: 日本福音ルーテル社団(JELA)

宗教改革五〇周年に向けて
ルターの意義を改めて考える(31)
ルター研究所長 鈴木 浩

『九五箇条の提題』がまたたく間に国中に広まったのは、前回指摘したように、民衆が競って購入していた「贖宥状」を取り上げていたからであった。対照的に、内容的には『九五箇条』よりもはるかに重要なのに、当時ほとんど無視された文書がある。『九五箇条の提題』と略称される『スコラ神学を論駁する討論』である。発表されたのは、『九五箇条』よりも八週間ほどまえの九月四日のことであった。

その第一提題は、異端者に反対してアウグスティヌスが語る言葉には誇張があると言うことは、アウグスティヌスがほとんどどこでも嘘をついていた、と語ることに等しいことになっていた。

ここで「異端者」と呼ばれているのはペラギウス主義者のことである。アウグスティヌスが死ぬまで闘った論敵である。この論争でアウグスティヌスは「原罪論」を明確に語った。人間は生まれつき「罪を犯す苛酷な必然性」のもとに立たされており、誰も「罪を犯さないこと」ができない、と言った。いくら何でもこれは言いすぎだ、というのが中世後期の定説であった。

ルターはその定説に逆らい、「原罪論を真剣に受けとめねばならない」と異議を申し立てたのだ。

カトリック教会・日本聖公会・日本福音ルーテル教会
合同礼拝
Ubi Caritas et Amor
2014年11月30日(日)
15時 シンポジウム 17時 合同礼拝
東京カテドラル福音堂聖マリア大聖堂
詳しくは <http://sumnu2014>



議長室から

収穫の後は祭りが付きます。私の暮らす池袋では、この時期にくつもの祭りで賑わいます。皆さんの地域でも同じことでしょうか。先日、行きつけの理髪店で興味深い話を聞きました。

のことでした。祭りの肝心なものが骨抜きになりつつあるわけです。旧約聖書を開くと、イスラエルの民も様々な祭りを祝ったことがわかります。特に三大祭りと呼ばれる祭りは有名

祭りをただ継承したのではなく、そこに大切なことを注入したのです。神様の救いの歴史です。エジプトからの脱出、荒野の旅の中でも、日々の歩みを支え、守り、導いてくださった神様の救いの

しい意味を持ったということですから、それが聖餐式に表れているのです。聖餐式と言うと、やや形式ばった響きがありますが、これは本来楽しい祭りですから、聖餐「祭」と言った方がよいのかも知れません。キリストによる救いの出来事を覚え、その出来事が私たちにも及んでいることを喜び、祭りを楽しく祝うのです。このように考えると、私たちこそが本當の祭りを祝っていることに気づくのです。礼拝の意味を心に刻み、そこに集えることを誇りにしたいと思うのです。

本當の祭りを祝う

総会議長 立山中浩

晩秋となりました。初秋から様々な果物が店頭を賑わしていました。が、実りの秋、収穫の秋ももうすぐ終わろうとしています。諸教会、諸施設でも実りと収穫を感謝して特別な行事や集いが企画されていることでしょうか。神様の祝福をお祈りいたします。

日本の祭りは神社の神輿が切り離せませんが、最近では商業ベースの祭りが盛んになり、神社とは関係ない祭りもあるというのです。神輿を出してよいものかと、神主さんが困惑していると

です。それらは農作物の収穫と深い関係があることが指摘されるようです。元もと遊牧民だったイスラエルの民は、異教徒である農耕民の土着の祭りを取り入れたのです。しかし、それらの

出来事を思い起こす祭りにしたのです。福音書を開いて気づかされることもありました。旧約の三大祭りのひとつ、過越の祭りがイエスキリストの時代にも継承されそれがさらに新

めん流し用の竹加工、夕食作りなどの奉仕作業（ワーク）も行いました。最終日、3日間の活動を振り返り、みんなが分かち合うこともできました。そして、派遣礼拝をもつて、それぞれの場所へ派遣されました。

全国青年修養会報告

全国青年修養会実行委員長 末吉潤一(神水教会)

9月13日から15日の3日間、静岡県の新霊山教会を会場として、第18回全国青年修養会が開催されました。今回は、REJOICE(喜びをみつけよう)をテーマに全国から21名の青年(牧師を含む)が集められました。まず、3日間を通して一人ひとりが見つけた「喜び」を付箋に書きとめ、横

造紙にどんと貼っていました。初日には、「新霊山教会」とデンマーク牧場福祉会の歴史」を学ぶことができました。

2日目には「神さまから与えられる喜び」について学び、感情的あるいは物質的な喜びではなく、神さまに繋がっていることそのものが「喜び」なのだとなりました。

また、「これらの学び」に加えて、今回は「自分で動く」ことにも取り組みました。パーベキューでの食材の処理から火起こし、配膳もすべて自分たちで行いました。また、新霊山教会の方が作ってくださった折りたたみ式間仕切りで、礼拝堂に男女別の寝室も設営しました。夜には、恒例となった交流会で楽しいひと時を過ごすことができました。仲間との繋がりに感謝することができました。

2日目の主日礼拝では、受付・アコライト・聖書朗読・賛美の礼拝奉仕をさせていただきました。礼拝後には、東海教区の皆さんと合同で、草刈りやペンキ塗り、道路わきの草木集め、そ



九州教区壮年連盟修養会・総会報告

九州教区壮年連盟会長 山口邦久(箱崎教会)

第46回壮年連盟修養会・総会が「福祉と教会」の主題のもと、9月22日夕から23日午前の日程で、第1日目はホテル、第2日目は箱崎教会を会場として開催されました。今回は、壮年会だけでなく女性会、青年会にも呼びかけ、延べ59名の参加がありました。また、ルーテル学院大学・神学校後援会の益田哲夫さんがご参加くださり、アピールがありまし

れました。総会後の懇親会では、それぞれの教会や自己の現況を報告し合い、長年の信仰の友との旧交を温め、信仰を確かめ合うことができました。ただ、直前になって体調を崩され、参加を見送った方が数人おられたことか、馴染みのお顔が見えない寂しい思いをいたしました。

が、礼拝での席上献金は、パイオルガン設置献金と合わせてルーテル学院大学・神学校に捧げました。限られた時間でしたが、主のお導きのもとに「見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。」(詩編133:1)というみ言葉を改めた実感を感謝します。

第1日目は、開会礼拝のあと、総会が行われました。この修養会・総会は、1968年に第1回が開催され、以来各地区が持ち回りで担当し、毎年、開催されてきています。しかし、この数年、各教会とも壮年会員の高齢化、少数化が進み、地区によっては担当できなくなってきたという実情があります。総会では、そうした問題にどう対応していくか熱心に協議された結果、その実施方法などをいろいろ工夫しながら今後も開催していくことが確認さ

第2日目の修養会では、講師としてルーテル学院大学の金子和夫先生をお招きし「映画『三日月の夕日』から地域福祉を学ぶ」と題したご講演をいただきました。先生の話しをとお話しをとおして地域に存在する問題を知り、地域の中で教会の存在、働きのある方について示唆を与えられ感謝です。最後に、閉会派遣礼拝に与かり、それぞれの地、教会に派遣されて行きました

めん流し用の竹加工、夕食作りなどの奉仕作業（ワーク）も行いました。最終日、3日間の活動を振り返り、みんなが分かち合うこともできました。そして、派遣礼拝をもつて、それぞれの場所へ派遣されました。

今回の修養会は、学び・ワーク・交流と盛りだくさんの充実した3日間でした。今回の修養会のためにご尽力くださいました、後藤由起牧師をはじめ新霊山教会の皆様、心より感謝申し上げます。本當にありがとうございます。



礼拝式文の改訂



「みことば」

式文委員 松本善宣

神様の「招き」に込めて集う私たちが与る礼拝の第2部は、「みことば」と題されます。神様が招くのは、私たちにみ言葉を語り掛けるためです。私たちは神の言葉を聞く必要がある存在であり、それを聞き、それに与ることなしに福音による義を受け取る信仰は生まれません。何より「みことば」なしに、礼拝そのものが成立しないのです。

キリスト者は、その初めから聖書を読むこと、神の言葉を聴くこと「パンを裂くこと」(聖餐)を礼拝の中心に据えました。主日礼拝を具体的に記録した最古のものと言われるユスティノス(2世紀前半)の『第一弁証論』にこうあります。「太陽の日と呼ぶ曜日には、…一つところに集まり、使徒達の回想録か預言者の書が時間のゆるす限り朗読されます。朗読者がそれを終えると、指導

者が、これらの善き教えにならうべく警告と勧めの言葉を語るのです。…一同起立し、祈りを献げます。そしてこの祈りがすむと…パンとブドウ酒と水とが運ばれ、指導者は同じく力の限り祈りと感謝を献げるのです。…会衆はアーメンと言って唱和し、一人一人が感謝された食物の分配を受けこれに与ります。改訂式文の「みことば」と次の「聖餐」の繋がりが良く分かります。というより、これまでのどの時代のどんな礼拝でも、基本は、この2世紀の記録そのままであったことがお分かりでしょう。

この普遍性故に、今回の改訂案で最も現行式文との変化が少ないのが「みことば」です。変更点は現行の「特別(主日)の祈り」が、その礼拝全体の主題を明らかにするという意味で、直前の「招き」の最後に移行すること、「信仰告白」の後に、現行では派遣の部にあつた「とりなしの祈り(教会の祈り)」を置いたこと、それに続けて「平和の挨拶」をすることくらいです。とりなしの祈りをここに置いたのは、先のユスティノス以来の説教に続けて行われた伝統の回復と、現在、しばしば起こる献金奉獻の祈りとの混同を避ける意図がありま

す。平和の挨拶は、パウロが言う「聖なる口づけ」(1コリント16・20、2コリント13・12、ローマ16・16)が、その後の会食(聖餐)に与る前の「和解の挨拶」だったと思われることから、「聖餐」の中ではなく、そこに移行する直前としたものです。

3つの聖書朗読と、そこでの「聖書日課」については、ここで詳しく触れる紙面がないので、石田順朗先生の『新著 神の元氣を取り戻す』(2014年、リトン)8、9章を是非ご参照ください。改訂案が目指したひとつのことは、詩編の回復です。現行でも「詩編」を用いる可能性は幾つか示唆されていますが、改訂案では第1朗読後に旧約日課の続きとして置き、さらにその他の幾つかの可能性を示して、礼拝の素晴らしい伝統である詩編を用いたいのです。単なる朗読となると4つも日課が連なることになり、交読や交唱、歌唱や詩編歌謡美歌など、様々な工夫によって、より豊かな礼拝を守りたいものです。

近くてよく知らなかった 教会の仲間たち

— 中国教会訪問 —

九州地域教師会会長 杉本洋一

日本語では、大きさに聞こえることさえある「熱烈歓迎」の「熱烈」との言葉が、今回の中国教会訪問では、まさにしつくりと馴染んで響きました。九州地域教師会では、8月20日(25日、中国教会を訪問しました。参加した教師は、九州からは6名、東・西・東海から各1名の計9名でした。そのほとんどは佐賀空港より上海に向けて出発し



ました。中国国内では新幹線を除き、ほぼ全行程、陳牧師や複数の牧師、中国教会による案内と移動、そして宿泊場所の配慮がありました。深く感謝を申し上げなければなりません。

上海へ到着早々に出席した、毎水曜日の夜に行われている青年のたのみの礼拝では、会堂に溢れるほどの青年と賛美の声の大きさに圧倒され、大きな驚きと感動を覚えました。理屈では説明できない、確かな若者の祈りと力強い賛美の声でした。礼拝での熱き姿というのは、日頃接することの少ないものです。

の握手・歓迎の言葉かけが丁寧になされ、フオローアップもしっかりしていることを目の当たりにしました。

また、どの教会でもそうでしたが、新来会者に対して、ひとりひとりへの管理の元におかれ、その宣教活動は認められていますが、日本における信仰の自由と同じように、

の声を挙げながら見たり聴いたりした中国教会訪問でした。黄大衛牧師の導きがあれば実現することのない訪問でもありました。感謝。

書評

『魔法の粉』谷口恭教著 (キリスト新聞社)



柔らかな温かな心の中学教師、徹底して平和にこだわるキリスト者

江藤直純

こんな先生に習いたかった…本書を読んだ人なら、だれもがこう感じ

るだろう。なんと生徒を愛し、その成長のために心を砕かれたことか。しかも、多くの場合ユーモラスに表現しながら、読んでいて、何度声をあげて笑ったか。そして、何度胸が熱くなったことか。

和のために働き、一昨年、81歳の生涯を全うされた。柔らかなだけでなく芯は生徒への愛とキリストへの信と平和への望みを確固として持ち、温かなだけでなく熱い思いと涙をもつた方だった。かけがえないルーテル教会員(大江教会所属)だった。

生観など人生と社会にとつても大切なことが、けつして大上段に振りかぶってではなく、実にさりげない話題から始めて、あるいは日常の出来事を通して、ごく自然に、267ページにわたって語られている。

谷口恭教先生、母校の九州学院(中学部)で英語を教え、そして人間であることを深く教えて43年。3歳で小児麻痺に罹り、右足と左腕に障がいを抱えながら、若い魂を育て続け、退職後も住まいのある大江・白川・託麻原九条の会を足場に平

生前書き溜めておられた文章を2人の娘さんがまとめたのが本書である。5部構成は、属す9条の会の機関誌に寄せられたエッセー「ゴマメの歯ざしり」36本、

障がいゆえのいじめも「麦踏み」として肥やしにし、生徒の愛情に涙して喜ぶこの方に出会えて良かったと、心底感謝している。一読をお勧めする。



白髭市十郎先生の召天に際して

鈴木 浩

白髭市十郎先生の訃報を聞いたのは、10月6日(月)の昼前のことで



1914年11月7日～2014年10月3日 1949年按手

あった。直ぐに考えたのは、万難を排して葬儀に出席しなければ、という

ことであつた。白髭先生はわたしの師匠だったからである。葬儀に出席できなかったのは、痛恨の極みである。

先生は教会手帳の引退教職の欄では長い間、いつも先頭に置かれていた。一番年長だったからである。北森嘉蔵牧師、坪池誠牧師、牛丸省吾郎牧師ら、同世代の牧師の召天後も長い間お元気で、最初は九州で、長男の家族と共に、その後大阪でご次男の家族と共に暮らしておられた。

1975年から1981年までの6年間、つまり神学生時代を通じて、わたしは先生が牧師としていらした。白髭先生である。「学ぶ」という言葉は「まねぶ」と「真似る」から来ている。それが、わたしの説教のスタイルも、教会のスタイルも、考えてみればそのモデルをひたすら真似る中で作られたのだと思う。

始動。宗教改革500年記念事業

宗教改革。世界史に刻まれた神の出来事から500年。その節目に私たち教会は、自身の歩みを問われるだろう。そして、私たち教会はその意味を証しするのだ。その中心にあるのは神の言葉である。マルティン・ルターがそうであったように、私たちもまた神の言葉に立ち、また神の言葉を指差すのである。

全国ディアコニア・セミナー報告

全国ディアコニア・ネットワーク代表 谷川卓三

第22回秋のディアコニア・セミナーの参加者総数は53名内、2日目のバスツアー参加者30名でした。今回のテーマは「田中正造とキリスト教」でした。このように個人を取り上げたセミナーは初めてであったように記憶します。

今回このテーマとなったのは、田中正造のことを愛してやまない今回の講師であり道案内人となつてくださった芳賀直哉先生の故です。先生は小島教会で静岡大学名誉教授、専門は宗教哲学です。先生ご自身、行動の人で、静岡市では毎週金曜日

となり、今回、私たちはたくさんの刺激を受けることが出来ました。田中正造。明治の民権運動家、国会開設とともに衆議院議員として連続6回当選の身にもかかわらず、足尾銅山鉱毒事件の直訴のため国会議員を辞し、犠牲とされた谷中村に入って村民と共に生活すること12年。最後は河川の实地調査行の中、行き倒れになつて逝つた義人。彼は洗礼こそ受ける機会を得ませんでした。聖書をたえず携行し、その信

仰は谷中村の生活の中でますます深められてゆきました。芳賀先生の案内で現地に行き、実際にこの目で正造の直訴状を見、遺品のズタ袋の中の聖書、特にマタイ福音書と憲法、それに三つの小石を見、現地の人から義人であり変人扱ひされた正造の様子を聞きました。彼の有名になつた言葉、「真の文明は、山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」も、最後の日記の中に毛筆で書かれているのを見出すことが出来ました。この世に絶望しつつも、なお希望を持つ、キリストのような不屈の信仰からの言葉であつたのだと思ひます。広大な谷中村跡に佇んで、何故彼があえて全てを投げ打つてそこに入つて行つたのか、問いの前に立たされた。彼はただ実践において主に「真似る」信仰の持ち主でした。その信仰の姿勢にこれからはますます学び、私たちもまます前を立ち、なすべきことを捉えようとする、ディアコニアの旅でした。

に反原発の街頭行動を続けています。田中正造に関心をいだき、研究し始めたのは「3・11」が契機となつたとのこと。田中正造の熱情と芳賀先生の熱情が渾然一体

「この聖書箇所は白髭先生だつたらどう説教されるだろうか」「こういう状況に直面したら白髭先生ならどう対処されるだろうか」というところから、わたしの発想は始まつていた。先生の説教は、正統的であつた。余計な脇道にそれず、聖書のテキストに固着した説教であつた。それは、心の中に静かにしみ込んでくるような説教であつた。今となつてはただひたすら懐かしうございしました。



立て、この節目に立ち、そこから歩みだそうとしている。そのためのシンボルマークの選考も行われた。計画されていることは、全体でなすべき最低限と考えられていることであるが、当然、各地の教会と関係施設が、大げさに言えば社会に対してルターとその精神を提示する拠点として生き生きと存在することが500年の一度の機会にふさわしいことだろう。



新訳「エンキリディオン小教理問答」マルティン・ルター著 ルター研究所訳 B6版115頁 教会内限定価格900円(税込) 発売リットン 注文方法など詳細は各教会宛に配布される案内を参照ください。